○集計結果（n＝10）【令和3年2月18日】

領域	取組項目	評価項目	実　践（評価結果）	成　果	課題と改善策	A	B	C	D	点数	評価
1　学校教育目標等				Ａできた－－－－－Ｄできなかった		2	1	-1	-2		
具体的重点目標１０箇条	（１）期末テストで，各学年平均６５％以上の正答率を目指します。＜知＞	評価方法（成績集計表） 評価時期（学期毎）	・教職員の学期毎の評価においては，個人差があるものの，ほぼ達成できているという評価であった。	・目標を数値化することで，教師も生徒も意識して取り組むことができた。	・校内ので作成する期末テストだけではなく，業者作成で実施する実力テストにおいても数値化した方が良いという意見もあった。	7	3	0	0	17	A
	（２）登下校，地域・学校での元気なあいさつができる生徒，８割以上を目指します。＜徳＞	評価方法（生徒アンケート，保護者アンケート） 評価時期（学校での設定回数によるもの）	・生徒アンケートでは，８６％の生徒ができていると回答していた。 ・教職員のアンケートでも約７５％が出来ていると回答している。	・重点的目標に掲げるとともに，部活動における挨拶の指導が功を奏している。	・個人差があることから，個に応じた指導が必要である。	6	3	1	0	14	A
	（３）学校が楽しいと感じる生徒，８割以上を目指します。＜知・徳・体＞	評価方法（生徒アンケート） 評価時期（学校での設定回数によるもの）	・生徒アンケートでは，９４％の生徒が楽しいと回答していた。 ・教職員のアンケートでも約７５％が楽しく生活している感じ取っている。	・いじめ防止対策や個々生かす指導が展開できているとともに，学校全体での相談体制ができていることが要因と考える。	・一人一人がより相談しやすい体制つくる必要がある。	9	1	0	0	19	A
	（４）家庭学習の習慣化を目指し，１学年毎日６０分以上，２学年毎日９０分以上，３学年毎日２時間以上の家庭学習の割合で，平均８割以上の達成を目指します。＜知＞	評価方法（生徒アンケート，保護者アンケート） 評価時期（学期毎）	・生徒アンケートでは，１学年及び２学年の平均６０分～９０分，３学年平均１２０分以上と回答していた。 ・教職員のアンケートでも約７５％が達成していると評価してる。	・学習内容は別として，家庭においてある一定程度の学習時間を確保することができた。 ・コロナ禍での臨時休業における課題の出題なども効果があったのではないかと考える。	・今後個々にタブレットが配布されることので，家庭学習における質を高められるよう指導していきたい。	5	5	0	0	15	A
	（５）小中連携，中高連携事業（授業，部活動，行事等）を年２回以上実施します。＜知・徳・体＞	評価方法（生徒アンケート，教職員学期末反省） 評価時期（学校での設定回数によるもの）	・小中連携：　英語の授業の出前［小泉小］，数学の授業の出前［津谷小］ ・本吉響高との連携：募金活動，挨拶運動，ビオラの播種（栽培活動）	・小学校への出前授業を通して，児童に中学校での授業に興味を持たせることができた。 ・本吉響高と連携した活動を通して，生徒同士が気軽にコミュニケーションが出来る雰囲気が醸成された。	・校種間の行事調整が大切であるとともに，あらかじめ年間計画に位置づけた方がよいと感じた。	8	2	0	0	18	A
	（６）名前を呼ばれたら「はい」と元気に返事ができる生徒，８割以上を目指します。＜徳＞	評価方法（生徒アンケート，教職員学期末反省） 評価時期（学期毎）	・生徒アンケートでは，７４％の生徒ができていると回答していた。 ・教職員のアンケートでは約半数の職員が，返事はしているものの元気の良い返事ではないと感じている。	・毎朝の健康観察及び出席確認での返事をはじめ，賞状伝達時での返事の指導を徹底して行った結果，改善の兆しが見えてきた。	・とっさに呼ばれた時には恥ずかしがって小声になるという部分を改善していきたい。	1	7	1	0	8	B
	（７）「早寝早起き朝ごはん」運動を推進し，朝ごはん三点セット（主食，汁物，おかず）の達成率８割以上を目指します。＜徳，体＞	評価方法（生徒アンケート，保護者アンケート，教職員学期末反省） 評価時期（学校での設定回数によるもの）	・生徒アンケートでは，９１％の生徒が食べていると回答していた。 ・教職員のアンケートでは約７０％の職員が朝食取ってきていると感じている。	・保健だより等を通して「食に関する指導」を行ってきた。 ・給食ではコロナに負けないサラダなど，コロナ禍における食生活の大切さを伝えることができた。	・バランスのよう食生活の指導が必要である。 ・朝食を取ってきていない９％の生徒への指導が必要である。	4	6	0	0	14	A

領域	取組項目	評価項目	実　践（評価結果）	成　果	課題と改善策	A	B	C	D	点数	評価
	（８）自力通学を奨励し，心身共に健康な身体づくりを教科体育，部活動，体育的行事を通して推進します。＜徳，体＞	評価方法（生徒アンケート，保護者アンケート） 評価時期（学校での設定回数によるもの）	・生徒アンケートでは，６３％の生徒が徒歩，３７％の生徒が車で送迎と回答していた。 ・教職員のアンケートでは約６０％の職員が自力通学ができていないと感じている。	・ＰＴＡ総会や学校だより等で自力通学の大切さを呼びかけた結果，途中から徒歩通学に切り替えた生徒が増えてきた。	・今後もできるだけ学校まで送迎してくるのではなく，１㎞ぐらいは歩かせるよう，保護者に呼びかけていきたい。	1	7	2	0	7	B
	（９）家庭におけるゲーム一日６０分以内運動を推進し，８割以上の達成を目指します。＜徳＞	評価方法（生徒アンケート，保護者アンケート） 評価時期（学校での設定回数によるもの）	・生徒アンケートでは，多くの生徒が１時間から２時間行っていることが分かった。 ・教職員のアンケートでは約８０％の職員が目標を達成していないと感じている。	・ＰＴＡ広報誌をはじめ，学年懇談会，スマホ教室，朝会や学級指導などで長時間におけるゲームが及ぼす悪影響について学習したことで，生徒はある程度理解している。	・家族ぐるみで話し合い，ゲーム時間のきまりを作る必要がある。	2	4	4	0	4	B
	（10）各学年において，年１回以上の体験活動を実施し，「奉仕の心」を育成すると共に地域貢献に努めます。 ＜知・徳＞	評価方法（生徒アンケート，教職員学期末反省） 評価時期（学校での設定回数によるもの）	・１年：職場体験活動 ・３年：防護服プロジェクト参加 ・全学年：草集め	・３年生は，従来高齢者福祉施設の訪問であったが，できなかったので代替事業を実施した。 ・草集めの奉仕作業は本当に助かった。	・次年度以降も労作教育の一環として，草集めの奉仕作業を継続した方が良いと感じた。	6	4	0	0	16	A

領域	取組項目	評価項目	実　践（評価結果）	成　果	課題と改善策	A	B	C	D	点数	評価
２　目指す学校像					Ａできた－－－－－Ｄできなかった						
生徒と保護者にとって通いたい（通わせたい）学校	（１）確かな学力	評価方法（教職員学期末反省） 評価時期（学期末）	・コロナ禍であったが，学びの補償と指導内容の精選に心がけ，教材教具の工夫及び週末課題の徹底を図った。また，個別指導も実施した。	・毎日の家庭学習のチェック（部活・主任・副担・管理職）を全職員で行うとともに，コメントも記入したことで生徒の学習を意欲を引き出す事につながった。	・個人差と臨時休校になった場合の対応をもう少し吟味する必要がある。	6	4	0	0	16	A
	（２）生徒主体の諸活動	評価方法（教職員学期末反省） 評価時期（学期末）	・生徒会活動 ・体育祭 ・文化祭 ・部活動　ほか	・教職員だけで決めるのではなく，実行委員会方式を実施したことで修学旅行も含めて生徒主体の活動になった。	・１年生の段階から企画力を育成していく必要がある。	9	1	0	0	19	A
	（３）部活動の充実	評価方法（教職員学期末反省，生徒アンケート） 評価時期（学期末，設定時期によるもの）	・外部指導者と顧問の連携のもと，役割分担しながら，生徒に効率的な指導を行った。	・コロナ禍における部活動を効果的に行うために，練習環境を変えたりするなど工夫しながら取り組むことができた。	・生徒数の減少から，各部とも部員が不足し，合同チームでの参加を余儀なくされた。	7	3	0	0	17	A
	（４）成長の実感	評価方法（教職員学期末反省，保護者アンケート） 評価時期（学期末，設定時期によるもの）	・各学年毎，諸行事や学校生活を通して生徒に自覚と役割を持たせ活動させた。	・生徒たちの考えを諸行事に取り入れた事により，満足感や成就感を得る事ができ，中学校生活の思い出となった。	・学校での活躍や成長の様子を保護者に具体的に伝える方法を考えたい。	7	3	0	0	17	A
	（５）質の高い教師	評価方法（保護者アンケート） 評価時期（設定時期によるもの）	・定期的な現職教育と校内研修など，オン・ザ・ジョブ・トレーニングを通して教員の資質向上に努めた。	・一人一人が生徒に対して分かりやすい授業を行うため，教材研究を頑張った。 ・ＩＣＴ等新しい取組に対し，積極的に取り組んだ。	・ライフワークバランスを意識した取組が必要である。	8	2	0	0	18	A
教職員にとって気仙沼一勤務したい学校	（１）安定した生徒指導体制	評価方法（教職員学期末反省） 評価時期（学期末）	・月に一度の職員間の共通理解を図る場の設定を行った。 ・事ある度に全職員に周知し，共通して取り組むことを確認した。 ・生徒指導体制が確立されていた。	・問題に対して，早期発見，役割分担をして早期対応したことが功を奏した。 ・生徒指導主事を中心に生徒指導体制が機能していた。	・生徒指導後の経過観察とその生徒に対するその後の支援を明確にするとともに記録するようにしたい。	7	3	0	0	17	A
	（２）働きがいややりがいの実感	評価方法（校長面談） 評価時期（１０月，２月）	・教職員との定期的な面談等を通して個々の思いや願いを聞くとともに，主任会等の組織を生かしながら報・連・相を重視した経営を行った。	・自分の立場や役割を理解し，個々の持ち味を生かし，意欲的な取組を行った。教職員へのアンケート結果から，全員が「津谷中に勤務してよかった」と回答していた。	・一人一人が一つ上の歩ジョンを意識した取組が必要であると考える。	9	1	0	0	19	A
	（３）十分な研修機会	評価方法（校長面談） 評価時期（１０月，２月）	・コロナ禍でセンター研修が中止になり，希望していた職員の研修機会が失われた。 ・１人１回の授業研究を行い，校内研究とＯＪＴの充実を図った。	・１人１回の授業研究では，事前検討会を行うとともに，その成果を事後検討会で話し合ったことにより，個々の授業力の向上につながった。	・例年であれば，１人１回は外部の授業研究会に出張させ，研修させていたが今年度はコロナ禍でできなかったので，次年度はこれまで通り実施したい。	6	3	1	0	14	A

領域	取組項目	評価項目	実　践（評価結果）	成　果	課題と改善策	A	B	C	D	点数	評価
地域にとって自慢の学校	（１）生徒の活躍が光る	評価方法（保護者アンケート，地域住民の声） 評価時期（学校での設定回数によるもの）	・一人一人が自分の得意分野で様々な大会や応募に挑戦する。 ・生徒の活躍の様子は，学校だよりで全校生徒や地域に周知した。	・今年度は中総体が中止になったが，代替大会を計画したことにより，一区切りをつけることができた。	・生徒に結果よりは，取組の過程の大切さを理解させたい。	8	1	1	0	16	A
	（２）生徒の積極的な地域行事への参加	評価方法（保護者アンケート，地域住民の声） 評価時期（学校での設定回数によるもの）	・今年度はコロナ禍でほとんどの行事が中止になり，生徒達の交流の場がほとんどなかった。	・春に近隣住民に見ていただこうとボランティア委員会で登校坂にスイセンを植えて「水仙ロード」を作った。	・本吉響高校と連携した地域行事への参加を模索していきたい。	6	3	1	0	14	A
	（３）情報発信	評価方法（保護者アンケート，地域住民の声） 評価時期（学校での設定回数によるもの）	・ホームページをはじめ，学校だより，校長通信，学年・学級通信や保健だよりなどを通して情報の発信に努めた。	・コロナ禍で行き先を変更し不安だった修学旅行等，その日の内にリアルタイムでホームページに掲載し，保護者に伝えられたことにより，保護者を安心させることができた。	・ホームページにおける個人情報を扱う部分が難しい。	8	2	0	0	18	A
３　コミュニティー・スクールとしての取組					Ａできた－－－－－Ｄできなかった						
学校運営協議会	（１）協議会の充実	評価方法（会長，副会長への聞き取り調査） 評価時期（年度末）	・定期的に会議が開催され，委員各位の出席も多数得て，有意義な意見交換を行うことができた。	・学校が取り組んでいる教育活動を全面的に応援し，自信を持って取り組んでもらうことができた。	・多くの学校行事を参観したい希望もあるが，現状のコロナ感染状況を考えると難しい。						A
	（２）学校経営への反映	評価方法（会長，副会長への聞き取り調査） 評価時期（年度末）	・学校経営重点目標の設定について，委員の意見が反映される仕組みになっている。また，折に触れ実践の経過報告もあり，最終評価に意見を述べる仕組みも整っていた。	・委員の意見を学校経営に反映する仕組みが機能していた。	・コロナ禍の状況が，どの程度先生方の教育活動に負担を与えているのか，また，どの生徒の学習活動に与えているのか懸念がある。						A
	（３）学校，地域の連携	評価方法（会長，副会長への聞き取り調査） 評価時期（年度末）	・学校では地域との協働教育の観点から，地域の伝統芸能の継承にも力を入れており，積極的に地域人材の協力を求めながら地域との連携に努めていた。	・地域の伝統芸能を発表する場面では，行事が盛り上がると共に，参観に来た保護者や地域の方々に感銘を与えていた。	・伝統芸能の演技に使用する衣装や用具等の維持管理費用が十分か懸念される。						A
	（４）市教育委員会等への要望	評価方法（会長，副会長への聞き取り調査） 評価時期（年度末）	・学校の施設設備に関して，学校経営の長期的な視点に立った現場のニーズと，２０数年前に市教委によって計画された整備計画との間に３件ほど不整合なものがあることが分かった。協議会では，第３者の立場から検討を加え，よりよい対策案をまとめた。	・市教委が２０数年前に立案し，まだ建設されていない施設は，代替策を講じて対策済みで不要であること。 ・生徒のニーズが高い他の設備が必要なこと。 ・修理部品の補充が不可能になっている旧式の設備については，最新のものに交換する必要があることが明確になった。	・学校運営協議会として要望を市教委に提出しているので，今後の対応を見守っていきたい。						A

領域	取組項目	評価項目	実　践（評価結果）	成　果	課題と改善策	A	B	C	D	点数	評価
４　コロナ禍における取組					ＡできたーーーーーＤできなかった						
学習活動	（１）授業進度	評価方法（教職員のアンケート） 評価時期（学期末）	・行事の精選を行ったり，7時間授業を取り入れた。 ・授業の内容の焦点化を図り，効率的な授業実践に努めた。	・例年通りに授業時数の確保ができ，履修すべき内容を終える見通しができている。	・今後も部活動時間の確保を図りつつ，行事の精選や７時間授業を行っていく必要がある。	9	1	0	0	19	A
	（２）未履修問題	評価方法（教務主任による調査） 評価時期（学期末）	・小学校６年生分については，小学校に調査し，６月までに終わらせた。 ・新年度の始まりが遅れた分については９月までに追いつくことができた。	・時々７時間授業取り入れるなど時間割を創意工夫することで，何とかなると言うことが分かり，今後の対応にも見通しが持てた。	・生徒，教職員に陽性者が出て臨時休校を行った場合のシミションを確立しておく必要がある。	9	1	0	0	19	A
	（３）配慮を要した授業	評価方法（校長による聞き取り調査） 評価時期（その都度）	・音楽における歌唱 →２学期から広い教室を利用して実施。 ・家庭科における調理実習 →間隔をとり喚起をしながら実施。	・合唱ができた事により，クラスのまとまりが強化された。 ・調理実習は限られた時間で手際よく行うため，応援隊の協力を得て行った。	・体育の柔道における組み手等は，今後どのように行っていくか未だに見通しが立っていない。	8	2	0	0	18	A
学校行事	（１）儀式的行事	評価方法（教職員のアンケート） 評価時期（学期末）	・放送で行ったり，コロナ対策を講じたうえで体育館で実施したりした。	・始業式や終業式を行うことでけじめをつけて，新しいステージに臨むことができた。定期的な朝会は週の始まりには良かった。	・コロナの感染状況をふまえ，対策を講じて実施する方向でいきたい。	8	2	0	0	18	A
	（２）修学旅行	評価方法（生徒アンケート，教職員のアンケート） 評価時期（終了後）	・５月中旬の予定を１０月中旬に変更して実施。目的地を東京・鎌倉から青森に変更。	・行き先は青森であったが，自主研修もできた上に，GOTOクーポン８，０００円のほか，１８，０００円のバックもあったことはよかった。	・今年度は不幸中の幸いであったが，次年度の修学旅行についても保護者の意向も聞きながら早急に進めていく必要がある。	10	0	0	0	20	A
	（３）体育祭	評価方法（生徒アンケート，教職員のアンケート） 評価時期（終了後）	・予定通り８月最終土曜日に，コロナ対策を講じ，種目を厳選し，半日開催で実施。	・種目間を十分取った事により，給水や散水など暑さ対策を取る事ができた。また，ゆとりを持って行う事ができた。	・部分的に４０℃の暑さであった事から，次年度以降は涼しい時期に行った方がよいと考える。	6	4	0	0	16	A
	（４）文化祭	評価方法（生徒アンケート，教職員のアンケート） 評価時期（終了後）	・１０月下旬の予定だったが，修学旅行等諸行事と重なったため，１ヶ月遅らせ１１月２３日に実施。	・展示と発表を別に行った結果，余裕を持って見る事ができた。	・次年度合唱コンクールは「はまなすホール」を活用した方がよいと考える。	7	3	0	0	17	A

領域	取組項目	評価項目	実　践（評価結果）	成　果	課題と改善策	A	B	C	D	点数	評価
５　いじめ・不登校等対応				Ａできた－－－－－Ｄできなかった							
いじめ問題	（１）いじめ防止に向けた取組	評価方法（生徒指導部会） 評価時期（学期末）	・学校生活アンケートを月１回（毎月第１火曜日）に実施した。	・短いスパンで実施したことにより，いじめの早期発見につながり，小さいうちに芽を摘むことができた。	・結果から気になった生徒の経過観察を実施できなかった。来年度は，3ヶ月程度，経過観察を記録していきたい。	9	0	0	0	18	A
	（２）いじめ問題への対応	評価方法（いじめ問題対策委員会） 評価時期（年２回）	・未然防止に向け，生徒会活動として「いじめ０（ゼロ）宣言」を実施。 ・学校生活アンケートの結果を職員で共有し，その後の指導に生かす。	・いじめ防止を生徒に意識付けることができた。 ・SC,SSW,心の支援員を含め，全職員がチームとして対応できた。	・「いじめ０宣言」を継続していくとともに，いじめを認知した際にはチームでの早期対応に努めていきたい。	9	0	0	0	18	A
	（３）いじめ問題対策委員会	評価方法（校長私見） 評価時期（年度末）	・今年度は，コロナ禍で新年度の始まりが遅れたため，年１回（１２月１１日）の開催であった。	・約９割強の出席率で委員から忌憚のない意見が多く出たことにより問題の共有化が図られた。	・会議でいただいた意見をもとに，毎月実施している学校生活アンケートの質問項目を精選していきたい。	8	1	0	0	17	A
不登校等対応	（１）不登校生徒への対応	評価方法（生徒指導部会，担当主幹教諭） 評価時期（学期末）	・全職員で役割を分担して対応（別室学習，作業の手伝いなど） ・完全不登校生徒への夜間登校の奨励	・３名中，２名が教室復帰 ・完全不登校生徒が夜間６回ほど来校 ・リモートによる学習の開始	・完全不登校生徒の保護者と良好な関係は構築できたが，卒業に当たって各関係機関への接続が課題である。	8	1	0	0	17	A
	（２）不登校生徒の防止に向けた取組	評価方法（教職員のアンケート） 評価時期（学期末）	・連絡ノートやいじめアンケートなどを通して状況を把握 ・教職員間で積極的な情報交換を行い全職員で対応	・全教職員が関わったことで，様々な取組ができた。 ・担任や担当学年の負担軽減につながった。	・不登校生徒の場合，家庭の協力が必要であることから，家庭と学校の関係づくりが大切である。	8	1	0	0	17	A
	（３）専門職員及び関係機関との連携	評価方法（担当主幹教諭） 評価時期（年度末）	・月１回の情報交換会での情報交換の実施 ・保護者，生徒の積極的な相談ができるような機会を設定	・定期的に情報交換会を設定したことで，早めに対処することができた。 ・意図的に相談機会を設定した。	・年間見通しを持って意図的・計画的に行うべきである。	8	1	0	0	17	A